

## ■ 3学期スタート！！

いよいよ本日から3学期がスタートしました。みなさん、クリスマスやお正月と楽しかった冬休みモードから切り換えて生活していきましょう。3学期は最も短い期間ですが、1年のまとめの時期もあります。少しでも充実するよう、気持ちを引き締めていってほしいものです。



2月には探究活動発表会もあります。各学年、各クラスで代表者を決定し、発表の準備を進めていくことになるかと思います。今年度も進学希望者で、高校在学中に探究してきたことをさらに大学で深堀したいという理由で学部学科を決めていた3年生もいました。1・2年生も「進路」を少しずつ意識しながら活動していくと良いでしょう。

## ■大学入学共通テストについて

1月17日(土)～18日(日)に大学入学共通テストが実施され、本校の3年生も受験する予定です。実施後、学校としても、各教科で問題を分析して生徒諸君に対策方法などを提示していきますので、ぜひ活用してください。さらに、受験雑誌等でも各予備校の先生による分析が掲載されていくことになるかと思います。1・2年生のみなさんは日頃の学習にしっかりと取り組むことはもちろん、そういった情報も収集して効率的に学習を進めていくことが受験対策としては大事になっていきます。その点も念頭に入れて、少しずつコツコツと進めていきましょう。



## ■ 3年生の合格体験記

3年生の合格体験記。今回は群馬大学に合格した渡邊紗月さんです。筆者は1年生のときから渡邊さんのクラスの授業を受け持っていますが、常に集中して学習に取り組んでいる姿が印象にあります。ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 渡邊紗月さん（3年4組）

群馬大学共同教育学部人文社会系国語専攻

私は群馬大学共同教育学部の人文社会系国語専攻に合格しました。入試方式は学校推薦型選抜です。試験の評価は調査書、志望理由書、小論文、集団面接（口頭試問を含む）で行われました。

調査書は3年間、主として取り組んできた文芸部の活動を記載していただきました。後輩の皆さんには受験や就職の際、担任の先生に調査書に書いていただくことになります。調査書は自分で開封したり確認したりすることができません。そのため、あらかじめ自分の志望する学校や企業で有利になりそうな実績を先生と確認しておくとよいと思います。何か活動を行った際は、「具体的に何をしたのか」「活動から自分が得たものは何か」をメモする習慣をつけておくようにしましょう。例えば、カレンダーやメモのアプリに2~3行書き出すだけでも後々活きると思います。活動を通して頂いた資料は時期ごとにファイリングしておくことをおすすめします。



志望理由書は出願の1ヶ月前くらいから推敲を重ねました。出願先によって字数や形式が指定されているケースが多いです。しかし、最初からその形式に合わせて書こうとするとかなり難しいと感じました。まずはその分野や業界、学校に興味を持ったきっかけを箇条書きにして、それが将来にどうつながるのかのイメージ像を作るといった作業から始めるとハードルが下がります。AIに自分の思いを引き出して言語化してもらうのも一つの手です。その際の注意点は、AIにかっこいい文章を作ってもらうのを最終目標にするのではなく、自分の力での説明にこだわることです。面接の際も志望理由書から問われることが多いので、自分でその内容を簡単に説明できるようにまとめておきましょう。加えて、推敲のために同級生や先生に感想を貰うことがあるはずです。はっきり言って、全てのアドバイスを取り入れようとすると逆にまとまりのない文章になってしまいます。自分の伝えたい軸がぶれていなければ、等身大の表現かどうか、見直すことを忘れないようにしましょう。

小論文対策は志望校で出題される傾向に合わせて取り組むとよいです。私の受験した大学の場合、見開き2ページ程の論理的文章が配布され、その中で述べられている筆者の意見に自分がどう思うかを述べる形式でした。ここで押さえたいポイントは、制限時間と文字数に合わせた構成や展開、出題される論理的文章の傾向把握及びその背景知識、要約力と語彙力の3つです。これらの技術を磨くためには、新聞の第一面を読むとよいと思います。特に私は新聞を逆から読むことをしていました。例えば、朝日新聞の第一面だと、上から①見出し、②要約（リード）、③本文の順番に記事が書いてあります。これを③→②→①の順番に読むことで、③を読んで内容を把握、②を読んで把握した要旨と合っているか確認、①を読んで一番重要な部分のおさらいができます。また、小論文のお手本を読む練習として、樋口裕一氏の著書『小論文これだけ！』シリーズを読むことをおすすめします。書く練習をする際は、時間を計ることを意識しましょう。制限時間内に上手く着地できる構成を考える訓練になります。いくらよい案が思いついても、提出する原稿用紙に収まらなければ伝わりません。限られた文字数の中、一貫した文章を作れるように意識しましょう。

面接対策をする際に注意してほしいことは2点あります。まず、自分が上手く回答できる自信がないからと言って面接練習の日程を先延ばしにしないようにしてほしいということです。失敗だらけでもいいので、まずは実際に行動してみて、「何が分かっているのか」

「何が分かっていないのか」を具体化、言語化した方が時間を有効に利用できます。また、むやみやたらに練習回数を重ねればいいというものでもなく、練習後に反省や分からぬこと（※時事問題や分野関連のこと）を調べ直す時間を設ける習慣をつけましょう。調べたものをノートにまとめるのも一つの案ですが、最終的に口頭で説明することになるので、コンパクトなまとめた方がよいです。面接練習を誰かにお願いする際には、なるべく前もって伝え、日程を調整しておきましょう。受験期はみんな練習したい気持ちがあるので余裕をもってスケジュールを組んだ方がよいです。

口頭試問の対策は、学部に関連すること（※自分の場合は国語）の対策の勉強がメインになります。例年の傾向を見ながら取り組むことになりますが、あまりヤマを張ってしまうと異なる内容が出題された時に対応できないのでやめましょう。なるべく早くから対策することをおすすめしますが、全てを完璧に網羅することは難しいので、幅広く6～7割を取ることを目標にした方が取り組みやすいです。ここで押さえるべき知識は2つで、公式や文法用語の知識と、有名なものや代表例等の知識です。前者を暗記することは勿論なのですが、後者をおろそかにすると当日頭が真っ白になるので両方の知識が必要です。もし仮に自分の知らないことを問われたとしても、「知っていることからの推測になりますが・・・」「分からぬので、家に帰ってからすぐに調べます」等の言い回しができるように練習しておきましょう。

最後に後輩の皆さんに伝えたいことがあります。受験期は誰でも焦りが出るし、どうしても他の人と比べてしまうことがあると思います。緊張感を持つのは大切なことですが、それが過多になってしまふと心身が壊れます。しかも、今まで大切にしてきた趣味の時間を「無駄な時間」「要らない時間」と決めつけてしまうとすごくストレスが溜まります。時間配分が難しいとは思いますが、勉強や受験のことだけに全ての時間を費やすのではなく、少し落ち着ける時間を作ってください。ご飯はちゃんと食べましょう。睡眠時間を削るのも、翌日の授業や自身のコンディションに関わるので体調と相談してください。入試の対策には正解はないので、自分に合っていることを模索しましょう。応援しています。

#### 【進路指導部から】

渡邊さんの合格体験記の中で調査書のことが触れられていますが、特に課外活動等については、書いてほしい内容（※部活動やボランティア活動の実績、英検や漢検など）をあらかじめ担任の先生に相談しておくのも一つの方法と言えるでしょう。



## ■新しい1年は・・・

日本漢字能力検定協会のキャンペーンである「今年の漢字」。昨年は1位が「熊」でした（※授業中にこの話題に触れたクラスもありましたが、筆者の予想通りでした）。2位～10位までは以下のとおりで、2位は「米」、3位は「高」、4位は「脈」、5位は「万」、6位は「変」、7位は「博」、8位は「女」、9位は「新」、10位は「初」でした。



特に昨年の6月頃から「熊」の出没に関するニュースが連日のように報じられました。筆者の記憶が正しければ、福島県内では福島市で東北新幹線の乗客から「川（※荒川）に熊がいる」との通報があって騒ぎになり、連日の報道がスタートした印象です。北海道・東北地方を中心に熊に襲われて亡くなる人が史上最多となっていました。熊が市街地に出没するケースも増え、「アーバンベア」などという言葉も散見されるようになりました。「アーバン」は英語の“urban”で「都市の」とか「都会的な」という意味ですね。「ベア」は英語の“bear”で「熊」のことです。福島市ではあづま総合運動公園での出没もあり、例年実施されているイルミネーションが中止になりました。

「熊」以外では、「脈」や「万」など、大阪・関西万博絡みの漢字も見られました。「脈」は公式キャラクターの「ミャクミャク」から来ているのでしょうか。当初は、開幕直前まで準備の遅れが目立ち、「果たして開催できるのだろうか？」と不安視されていましたし、正体不明のこのキャラクターについて、「気持ち悪い」など不評が目立ちましたが、終わってみれば、ミャクミャクは人気キャラクターとなり、万博も盛況のうちに幕を閉じました。

「高」、「女」、「新」、「初」については、女性で初の自民党総裁となり、国会で指名されて初の女性内閣総理大臣となった高市早苗首相に絡む漢字と言えます。6位に「変」が入っていますが、新しい時代への変わり目ということも言えるのかもしれません。なお、「高」については、「物価高」も絡んでいるものと思われ、上位の3位となりました。ちなみに、昨年は「令和の米騒動」とも言われた年で、「米」が2位に入りました。米の高値も続いていますね。

さて、令和8年が始まりましたが、今年はどのような年になるのでしょうか。昨年の漢字のトップ10には入りませんでしたが、11位に「暑」が入っていました。近年、春と秋が短くなり、「四季」が夏と冬の「二季」に変わりつつあるのではないかなどという話も聞かれます。筆者の中では、春は3月から5月にかけてそれなりに感じるとして、秋が極端に短くなっている印象があります。暑い時期が9月、10月にまで食い込み、昨年に関しては12月でも気温が20度前後のポカポカ陽気の日があったりしました。「地球温暖化」が確実に進んでいるということでしょうか。日常生活上、いろいろと問題はあることと思いますが、みなさんは、今年もそれぞれに「自分の目標」をしっかりと持ち、前へと進んでいってほしいと願っています。

文責：進路指導部 清水聖